

令和元年 10 月 21 日

仁淀川流域学識者会議
議長 笹原 克夫 様

日下川新規放水路施工技術検討部会
会長 原 忠

日下川新規放水路施工技術検討部会 意見書

令和元年 9 月から 10 月にかけて、2 回にわたり日下川新規放水路施工技術検討部会で審議した結果、事務局からの報告に対し、以下のとおり意見を付す。

1. 地質等を考慮した施工方法の検討について

- ・極めて複雑な地質・地盤構成であり、これらを予め明らかにして設計することは現実的ではないという事務局からの報告については、理解できる。
- ・トンネル掘削時のリスク管理のための地質・地盤推定図については、付加体の地質・地盤の不確実性・不均質性を表現する 1 つの手段であると評価できる。
- ・トンネル内部の変位等の観測状況から、切羽の状況を把握し支保の構造を決定する進め方はこれまでのとおり進めて問題ない。また、現地で把握した掘削時の地山状況を踏まえた補助工法の選定方法については、現行どおりで問題ない。
- ・発破時の肌落ちや小崩落が複数回発生していることや、事前の設計で想定していた地質評価に基づく地山等級区分のずれ及び地質境界部のずれにより破砕帯よりも手前で肌落ちや小崩落が発生していることから、今後、破砕帯箇所や大量湧水が懸念される石灰岩分布箇所の掘削など、配慮すべき箇所においては削孔検層の頻度及び施工長さを拡充させる必要がある。
- ・今後の施工にあたっては、予期せぬ事態も想定し、支保・補助工法等について、適切な見直しをしながら進めること。

2. 周辺環境への配慮の検討について

- ・防音壁、防音扉の施工及び制御発破の使用や発破時間の制限(本坑呑口側における昼間のみの施工など)により、適切に周辺環境への影響を軽減している。今後も周辺環境に配慮して施工に当たること。
- ・自然由来の基準不適合土砂については、現地での対応、移送時の配慮等の考え方について問題は認められない。施工の際の管理や運搬時の飛散防止など計画通り着実に取り組まれているかを確認する体制を組むこと。